**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第８６回　（２０２２年５月２２日）**

**・勉強範囲：「第四章　在家の人への助言」４５頁**

**～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～**

**📖４５頁上段　２行目**

**ある人びとはヨーギーの特徴を持って生まれている。しかし彼らもまた、気をつけなければいけない。『女と金』だけが障害だ。これらが、彼らをヨーガの道からそれさせ、俗世間に引きずり込むのだ。おそらく彼らは、まだ享楽に対するいくらかの欲望を持っているのだろう。その欲望を満足させるとふたたび心を神に向け、こうして、ヨーガの修行に適した前の心境を取り戻すのだ。**

**お前はショトカ・コルという、魚を捕らえるばねじかけのを見たことがあるか」**

**M「いいえ、見たことはございません」**

**（解説）**

シュリー・ラーマクリシュナは「**ある人びとはヨーギーの特徴を持って生まれている。**」と言っています。ここで質問ですが、ヨーギーの特徴（しるし）は何でしょうか？

（参加者）おだやか。

それはイメージですね。もっとはっきり「ヨーギーだ」と証明できるしるしは？

（参加者）怒らない。

怒らないのは道徳的な人のしるしですね。ヨーガは霊的ですから、ヨーギーのしるしも霊的な意味でのしるしです。

（参加者）執着がない。

（参加者）おしゃべりをしない。沈黙を守る。

（参加者）人生の目的を解脱と決めている。

（参加者）いつも神を思っているので、１つのことに集中しているように見える。

OK。『ラーマクリシュナの福音』には、身体的と、心のレベルでのしるしが書かれています。シュリー・ラーマクリシュナが、手の重さ、胸の広さ、耳の大きさ、目の大きさ、額や肩の形などに言及して「あなたは悟ります」とか「悟りますが少し時間がかかります」etc.と言っている場面がありますが、それは身体的なしるしを（普通の人は知らないが）シュリー・ラーマクリシュナは知っていたことを示しています。また、これは『福音』ではなく弟子の回想録にある話ですが、若い男性求道者のうちで誰が弟子となるかを決めるため、シュリー・ラーマクリシュナは時には服を脱がせて頭から足の先まで調べることがありました。

心のレベルのしるしは、たとえば幼少時から瞑想が好きとか神の礼拝が好きという、霊的なサムスカーラを持っていることです。子供の頃からスワーミー・ヴィヴェーカーナンダは、ヘビが来ても全く気づかないほど瞑想に没頭できました。プレマーナンダジーは幼少時から両親に、「私は結婚しない」「私を結婚させたら死にます」と言っていました。空を見て、「私の本当の場所はこの世界ではない。空です」と言う人もいます。これらは普通ではない、特別なことではありませんか？

アベダ―ナンダジーはずっと「ヨーギーになりたい」「ブラフマンについて話が聞きたい」と思っていて、初めてシュリー・ラーマクリシュナに会ったのは彼が１５、6歳の頃でしたが、何のためにここを訪ねて来たのかと聞かれて「ヨーギーになりたい」と答えました。それに対してシュリー・ラーマクリシュナは、「あなたは前世でヨーギーでした。しかし悟れませんでした。でも今生で悟ります。私はあなたにヨーガを教えます」と答えました。

トゥリヤーナンダジーは若い時からヴェーダーンタ哲学の勉強が好きで、ヴェーダーンタ聖典をよく読んでいましたが、物語の本ではなく聖典が好きというのは特別なしるしではありませんか？　他にブラフマーナンダジー、ニランジャナーナンダジーなど直弟子のことを思い出して下さい。すると、すぐに彼らが特別であること、それがヨーギーのしるしであることが分かるでしょう。彼らは前世からヨーギーのサムスカーラを持っていたのです。

ですが、そのサムスカーラを持って生まれてきても、今生で悟る人もいれば、悟れない人もいます。たとえば芸術の才能があっても自分で努力するよう気をつけなければトップレベルの芸術家にはなれないように、霊的なものも同様なのです。では何に、どう、気をつけるのでしょうか──ここでシュリー・ラーマクリシュナは「**『女と金』だけが障害だ。**」と言っていますが、「女と金」は「肉欲と金銭欲」をシンボル的な言い方をしたまでで、つまりは「欲望」に気をつけるということです。欲望には肉欲、金銭欲（お金は稼ぐよりも、良い方法で正しく使うことを識別して使うほうがもっと難しいものです）、名声欲のほか、あらゆる世俗的な願いが含まれています。

たとえば、まだ悟りに至っていないヨーギーに「超能力」が表出する場合がありますが、そのとき彼が欲望に駆られてその力を使うと、目的（悟り）から遠ざかってしまう可能性があります。超能力を見た世間から「高度なヨーギー」ともてはやされてうぬぼれたり、超能力を使ってお金を稼いだりして堕落が始まるからです。欲望とうぬぼれの中心は自分の身体と心です。しかし悟りの絶対条件は神中心でしょう？　本物のヨーギーになるにはすべての欲望をコントロールし、神中心に変わらなければなりません。

このように、たとえヨーギーのサムスカーラを持って生まれてきた人でも、超能力や大金が舞い込むなどのきっかけによって前世の世俗的なサムスカーラ（前世での世俗的な経験や、良くない人たちとの交流などによるサムスカーラ）は目覚めます。霊的修練をしている人でも、ふと快楽の場所に入ったとき、快楽が好きな人びとと交際したとき、以前のサムスカーラを思い出し、それまでは小さかった欲望の火が突如大きくなったりするのです。

寝ていたサムスカーラが目を覚ますと、次の段階は「目覚めた欲望を満たしたい」状態となり、それを満たすと、サムスカーラはますます強まって次の欲望へと向かいます。まるで火にギー（バター）を注いだときのように、世俗的なサムスカーラの惹きつける力は強力です。そして一度でも堕落をすると、元の状態に戻るのはとても大変になるのです。

霊性の道をかなり進んだヨーギーでさえそうなのですから、普通の求道者はもっと「**気をつけなければいけない。**」です。今はジャパなどの実践で小さい霊性の火が灯っているかもしれません。しかし小さな火なら、「欲望の風」が吹けばすぐに消えてしまうことでしょう。そうならないためにやるべきことは、「窓を閉めて欲望の風が入ってこないよう、気をつけること」です。具体的にはどうしたらよいのでしょうか。

１つは、世俗的な交わりを結んだり世俗的な場所（環境）に行く（関わる）のを避け、世俗的なサムスカーラが目覚めないようにすること、もう１つは霊的な実践をすることです。

これは実践的な助言ですが、たとえばお酒が好きな人がいるとします。その人は「今日は絶対に飲酒しない」と決めています。しかし飲食店の前を通って「勘定は後でいいからまずはお店に入ったら？」と強引に誘われて一歩店に入ってしまえば、断酒の決断がなえてしまうこともあるでしょう──それをくり返す人への助言は、「私はそのような誘惑に弱い。だから私がそうなりそうになったら、私に注意してください」と第三者に頼むことです。自分の心を信用せず第三者に頼む──それが１つのやり方です。

（参加者）眠っている世俗的なサムスカーラはいっぱいあっても、自分では気づきませんね？　そのサムスカーラは、寝ているままでも悟ることができるのか、寝ていたものを絶対に起こさなければ悟れるのか、それともそれらを起こして気づいて「このサムスカーラは良くない」と識別して捨てていくのか……。

そうではありません。肯定的なサムスカーラ、つまり霊的なサムスカーラを増やしていくと、世俗的なサムスカーラを思い出さなくなるのです。それが１つ。もう１つは、本当は、神の恩寵がなければ前の世俗的なサムスカーラは無くなりません。実は自分の努力ですべてのサムスカーラを消すことは無理です──ですから3つ目の方法が、神への純粋な祈りとなるのです。

１つが、瞑想、ジャパ、聖典勉強、神について考える、神聖な交わりなどの霊的実践によって霊的なサムスカーラを増やすこと。2つ目が、世俗的な場所や環境、交わりに気をつけること。そして最終的に3つ目が、「私を100％純粋にして欲しい」という神への祈りです。ホーリー・マザーはドッキネッショル寺院ではとても小さなコンサート・ホールに住んでいましたが、満月のとき、「満月はとても美しいがそれでも黒い点がある。私は自分の心にその点ほどの点さえ無くなりますように」と神に祈りました。そのような祈りです。

すると、やがて世俗的な種類のサムスカーラはすべて無くなります。「無くなる」という意味は「サムスカーラの種が燃え尽きる」ということです。種が燃やされた植物は二度と生えてくることがないのと同じです。

ですから、自分がどのくらい進んだかをチェックするために世俗的な場所に行ってテストする、などということは絶対にせず（それをするとまた困った状態に戻ってしまいます）、神にお任せしてください。そうすれば最終的に悟ります。そして悟れば何も気をつける必要はなくなります。これはよくシュリー・ラーマクリシュナが例えたことですが、牛乳に入れたバターは牛乳と混ざらず浮きます。そのバターのように、悟った人には何の影響もないのです。

しかし「悟るまでにはヨーギーでさえも試練が訪れる」と聖典には書いてあります。イエスには悟りの前にサターンが来て誘惑しました。ブッダもそのような経験をしました。シュリー・ラーマクリシュナも、パンチャヴァティで瞑想をしていたときに、突然美しい美女やお金や素晴らしい食べ物や服がヴィジョンとなってあらわれました。しかし、「私はそれらは欲しくない。私が欲しいのは神だけ。マザー・カーリーだけ」とそれらを押しのけました。

それらはヴィジョンではなく本物の美しい女性やお金の場合もあるし、潜在意識の世俗的なサムスカーラが表出する場合もあります。また、聖典には、厳しい行をしてまさに悟らんとする聖者を、天国の神々や王が怖がって嫉妬をして邪魔をする、という話もあります──たとえば瞑想中の聖者に天女を送って素晴らしい踊りを見せ誘惑するのです。すると聖者の快楽のサムスカーラが目覚め、彼女と結婚したいと思うようになります──そのような物語はヒンドゥ聖典の中にけっこうあります。聖者の中には、シュリー・ラーマクリシュナが言うように、「**まだ享楽に対するいくらかの欲望**」があるからです。

聖典に、霊的実践をしていたバーラタがある時から鹿の赤ちゃんに執着し、その赤ちゃんを思って亡くなったために次の生では鹿として生まれた、という話がありますね。彼は鹿として再生しましたが、神の恩寵によって前世で積んだ霊的経験を忘れていなかったので、鹿であるあいだは瞑想はできませんでしたが良い鹿として生き、次は人間として再生しました。そしてとても気をつけて生きて、やがて聖者になりました。彼はどれくらい気をつけましたか？　世俗的なものに全く興味を持たない、見ない、話さない……。タマス的な人の特徴は「鈍さ」「怠け」ですが、バーラタは一見そのようでした。しかしどんなにそう見えても、中は悟った状態でした。

これはシヴァの話です。シヴァが深く瞑想していると肉欲の神があらわれてシヴァを矢で射ました。痛みで目を開けたシヴァは、肉欲の神を見て怒って、目から火を出し肉欲の神を焼きました──シヴァはそれほど特別な神ですから。

ですが普通は、欲望があると堕落し、「結婚したい」などの欲望を満たしたあと、ふたたび神について考え始めます。シュリー・ラーマクリシュナは「**その欲望を満足させるとふたたび心を神に向け、こうして、ヨーガの修行に適した前の心境を取り戻すのだ。**」と言っていますね？　『バガヴァッド・ギーター』にも次のような説明があります。

*アルジュナが問います。『信仰を持って始めたものの、いつの間にの道かられてしまい、遂にヨーガを完成できなかった人は、おおクリシュナ様！　その後いったいいかなる運命をたどるのでしょうか？（６－３７）*

*おお、のクリシュナ様！　そのような人は、への道をふみ外し、この世でもあの世でも立場がなくなり、ちぎれ雲のように消滅するのでしょうか？（６－３８）*

*おお、クリシュナ様！　この点に関する私の疑念を、どうぞ完全に取り除いてください。何故なら、あなた様をおいて、この疑念を取り除いてくださる方は他にはま全くおりませんので。』と。（６－３９）*

*至高者は答えられます。『プリター妃の息子（アルジュナ）よ！　ヨーガを実践する人は、でもでも決して破滅することはない。何故なら、善を行う人が悪道にちることは、決してないからだ。（６－４０）*

*したヨーギーは、死んだのち、善行をなした人々の住むに往き、長い間そこで暮らしたのち、やがて地上の徳高き豊かな家庭に生まれ出る。（６－４１）*

*あるいはまた、大いなる智識をそなえた賢者の家庭に生まれてくるが、こうした誕生は、においては、まことに稀なことである。（６－４２）*

*クル王の息子（アルジュナ）よ！　そのような家庭に生まれた人は、前世における意識をらせ、ヨーガの完成を目指して前世以上の努力をし始める。（６－４３）*

*また前世で修行した功徳により、その人は自然にヨーガにかれていくが、この世では、たとえ初心者であっても、ヴェーダの宗教儀礼の域を超える最高の修行をしていくことであろう。（６－４４）*

*厳しい修行を積み重ねることによって、ヨーギーはすべてのれを清め、幾多の誕生をくりかえしたのち、ついに至上の目的地に着くこととなる。（６－４５）*

これではっきり分かりましたね？　霊的実践が無駄になるということはありません。ただ、霊性の道を進むまでには少し時間がかかるだけです。とてもOptimistic、楽観的、肯定的です。バーラタの話を思い出してください。バーラタは「鹿の生を授かる」ことで時間がかかりましたが、その後人間の生で悟ることができました。霊的実践を積んだ者はいずれ絶対に進歩するのです。

ですが堕落したら、途中は時間がかかります──そのことを理解すれば、「**気をつけなければいけない。**」ことも、理解できるでしょう。私たちにも「いま神について考えていたが、突然快楽のことを思い出して、そこからまた神についてのみ考える状態に戻るのは大変だった」という覚えはあるはずです。頑張らなければ前の状態にはなかなか戻れません。ですから頑張る状況になる前に、「**気をつけなければいけない。**」のです。

**（賛歌奉献）**（映像データの１：５１：２５頃）

「アイレーヴァイミレーシャヴァイ」　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上